

第14週の発生動向 (2006/4/3~2006/4/9)

1. 感染性胃腸炎については、先週に引き続き八戸、五所川原保健所管内を除く地域において、多い報告数が続いています。
2. 伝染性紅斑は、弘前保健所管内で引き続き**警報**が出されています。

第14週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ	61	4.36	14	0.93	44	3.14			38	4.22	18	3.00	175	2.69	-24
(60) 咽頭結膜熱			1	0.11							3	0.75	4	0.10	-5
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	0.44	10	1.11	8	0.89	1	0.20	3	0.50	2	0.50	28	0.67	-13
(62) 感染性胃腸炎	47	5.22	43	4.78	9	1.00	5	1.00	23	3.83	23	5.75	150	3.57	-17
(63) 水痘	20	2.22	7	0.78	12	1.33	2	0.40	8	1.33	27	6.75	76	1.81	-1
(64) 手足口病			1	0.11									1	0.02	1
(65) 伝染性紅斑	3	0.33	20	2.22	3	0.33	4	0.80	14	2.33			44	1.05	-6
(66) 突発性発しん	6	0.67	2	0.22	3	0.33			7	1.17	4	1.00	22	0.52	5
(67) 百日咳															0
(68) 風しん					1	0.11					1	0.25	2	0.05	2
(69) ヘルパンギーナ	2	0.22											2	0.05	0
(70) 麻しん(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	8	0.89	5	0.56	5	0.56	17	3.40	23	3.83	13	3.25	71	1.69	16
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎					4	2.00	2	2.00	2	1.00			8	0.73	1
(59) RSウイルス感染症			5	0.56					1	0.17			6	0.14	2

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	14	9	5	2	1
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

は警報
 は注意報
 「空欄」: 患者発生数0

感染症の窓

E 型 肝 炎

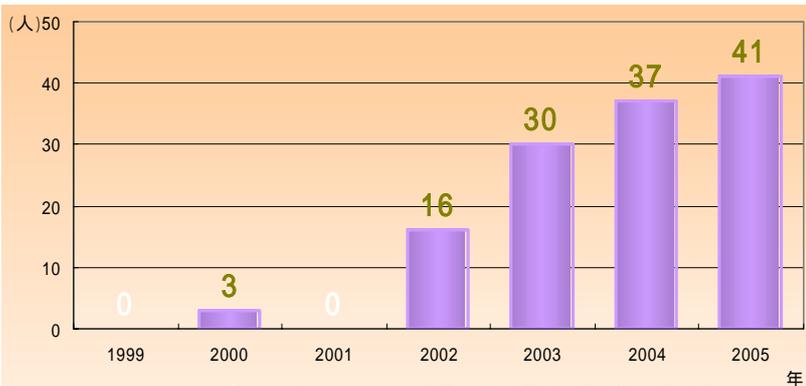


図. 国内におけるE型肝炎報告数年推移

病原体: 小型球形のRNA ウィルス。

潜伏期間: 15日から50日(A型肝炎より長い)。

感染経路: ウィルスに汚染された井戸水等による水系感染や、汚染された肉(ブタ、シカ、イノシシなど)の摂食で起こる経口感染。

症状: 発熱、食欲不振、黄疸など他の肝炎と同様。

E型肝炎患者数は、図に示したように、2000年に3例、2001を除いて、順次増加し2005年には41例が報告されています。事例としては、兵庫県内の複数家庭において、冷凍シカ肉を喫食したことにより起こったE型肝炎ウィルス(HEV)による食中毒や北海道等においては感染症例が報告されています。厚生労働省研究班の調査研究では、約100年前、軍人の体力をつけるため、英国から大量に輸入されたブタによりウィルスが持ち込まれ、その結果、国内に土着した可能性が高いことが報道された(4月9日読売新聞報道)。海外においても、本ウィルスによる感染症は発生しているので、仕事や観光で海外に行く人は、生水や食品の摂食には十分気をつけてください。